三鷹市立大沢台小学校　令和8年度 【体育】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・体を動かすことを楽しく感じている児童が多く、意欲的に学習する児童が多い。 ・運動に苦手意識のある児童もいる。 ・遊びのルールを正しく把握できず、混乱したり、トラブルになったりしてしまう児童がいる。 ・簡単な遊び方を工夫することや考えたことを友達に伝えることに個人差がある。	**〈指導方法の課題〉** ・友達への伝え方の基本パターンを常時視覚的に分かるようにする。 ・手で支えての支持は、体つくりの運動遊びや日常生活、宿題において意識して行うようにする。 **〈授業改善策〉** ・運動に苦手意識のある児童も楽しむことができるように、活動をスモールステップで設定し、個別指導もしていく。 ・学習用タブレット端末等を使用して、工夫した動きや遊びなどが伝えられるように言葉を集め、児童が見ることができるようにする。 ◎授業のまとめで友達のよいところを発表する時間を設けたり、学習カードを利用したりして、友達のよい動きや自分がどのように頑張って取り組んだかなどを互いに積極的に見付けられるようにする。
第2学年	**〈成果〉** ・学習内容を、スモールステップの学習カードを活用することで、運動が苦手な児童も、安心して楽しく運動遊びに取り組むことができた。 ・事前に遊ぶ内容や活動する内容を短焦点プロジェクターで見せ、見通しをもって活動することができた。 **〈課題〉** ・ゲームに夢中のあまり、周りが見えず、友達と協力して運動することが難しかった。 ・学んだことを休み時間に生かすまでには至らなかった。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・体育の授業に対して意欲的に取り組む児童が多い。 ・ICT機器を活用し、動画を見せることによって動きのイメージをもたせることができた。 ・形態、遊び方を工夫しながら、自分が気付いた動きのポイントやゲームでの作戦を伝え合ったりする活動ができたが、よい動きを言語化したり、友達にアドバイスしたりできる児童は少ない。 ・様々な運動遊びを楽しんで行うことができた。用具を操作する運動遊びや固定施設を使う運動遊びでは、個人の能力の差がある。 ・ボールを使っての活動では、個人差があり、ボールに触れる機会やみんなで遊ぶ機会を増やす必要がある。	**〈指導方法の課題〉** ・各種の運動遊びの行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付けるための提示方法や手立てが十分ではなかった。 ・それぞれの運動で基礎的な力を身に付けさせるための日常的な時間をあまりとれなかった。 ・自分の思いをペアやグループで共有する時間はあったが、発言する児童に偏りがあった。 **〈授業改善策〉** ・学習用タブレット端末等を使って、基本（手本）となる動きを動画で見せたり、自分の動きを見返したりしながら、動きのポイントが分かるようにし、児童がすすんで繰り返し練習できるようにする。 ・学習カードで、よい振り返りをしている児童を取り上げ、全体で共有する時間をつくり、どの児童も学習にすすんで取り組めるようにする。 ◎自己の目標を明確にできるように学習カードを工夫したり、運動のポイントを出し合ったり、手本を見合う時間を確保したりすることで、必要な動きの定着を図る。
第3学年	**〈成果〉** ・運動のポイントを明確に伝えることで、技能面についての理解が深まった。 ・振り返りの共有を行う時間をとることで、学び合いについての意欲をもつことができた。 **〈課題〉** ・生活経験から運動技能に個人差がある。 ・学習用タブレット端末と学習シートとの活用バランスが難しかった。 ・運動のこつについて、言語化がうまくできず、学び合いが難しいことがあった。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・友達と関わりながら楽しく運動できる児童が多い。 ・自分に必要な技能を身に付けるための練習をすることができる。 ・チームで作戦を立てたり、その作戦を実行するための練習をしたりすることができる。。 ・走・跳の運動や浮く運動・泳ぐ運動等の克服型の個人技能が求められる運動では、技能に差がある。 ・勝敗にこだわりすぎることがある。 ・自分の課題を見付けられず、漠然と取り組むことがある。	〈指導方法の課題〉 ・各運動で意識すべきポイントが理解できていない児童がいる。めあてとなるポイントを焦点化して分かりやすく提示する必要がある。 ・各種目で目的となる姿を具体的にイメージさせられていない。 ・自分の課題、めあてを把握させられていない。 ・児童がお互いの動きを見て評価する時間が十分に取れていない。 〈授業改善策〉 ・意識すべき各運動のポイントを学習カードや掲示物を使い、確認する。 ・目標となる姿の動画などを見せ、具体的に目指す姿がイメージできるようにし、学習のゴールを明確にさせる。 ・目的を明確にしたグループ分けをし、児童間の話し合いがより深まるようにする。 ・学習用タブレット端末等を使って動きのポイントを掲示したり、動画を用いたりして課題やめあてを意識させるようにする。 ◎児童同士で体の動きを観察し、アドバイスをし合う場面を設ける。対話的に学び合う場面を設けることで、自己を客観視させ、課題を把握できるようにする。
第4学年	**〈成果〉** ・チームで作戦を考えたり、声をかけ合ったりしながら、協力して活動することができている。 ・準備や片付けをすすんで行うことができる児童が多い。 ・キャッチバレーボールでは、活動の中心をゲームにすることでチームの課題を解決に向けた話し合いが自然を行われていた。 **〈課題〉** ・生活経験や興味・関心から、運動技能に個人差がある。 ・どうすれば遠くに跳ぶことができるか、どうすれば早く走ることができるかなど、自らの運動場面の言葉に表現する力が乏しく感じられる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・チームで作戦を考えたり、声をかけ合ったりしながら、協力して活動することができている。 ・準備や片付けをすすんで行うことができる児童が多い。 ・児童同士で、お互いに課題となるポイントを伝え合うことに個人差がある。	**〈指導方法の課題〉** ・チームで学習する単元では、ルールを全体に定着させることに時間がかかっていた。 ・自分の課題や活動場面を思い出しながら、具体的な言葉表現できるようにする。 ・単元を通して身に付けさせたい力を明確にしておくことで、視点を絞って児童に投げかけ、提示できるようにする。 **〈授業改善策〉** ◎学習用タブレット端末を用いて、児童が互いに自分の動きを確認し合えるようにする。 ◎学習の振り返りでは、具体的な言葉の例を示し、自分に当てはまるものを選択できるような工夫をしていく。 ・自分の課題が捉えられるようにするために、グループで見合ったり、取り組んだりする時間を設ける。
第5学年	**〈成果〉** ・チームで作戦を考えたり、声をかけ合ったりしながら、協力して活動することができている。 ・準備や片付けをすすんで行うことができる児童が多い。 **〈課題〉** ・勝敗にこだわりすぎてしまい、チームプレーより個人プレーに重きを置いてしまい、雰囲気を悪くしてしまう児童がいる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・協同的に学ぶことができている一方で、その時間のめあてを明確にもって学習する児童が３割程度と少ないため、ただなんとなく動いていることがある。 ・学習カードを毎時間配信し、めあてと振り返りを書く時間を設定していることで、自己調整学習ができている児童がいる一方で、二極化の傾向もある。 ・お手本の動画を活用して学習する姿が見られた。ただ、一部の児童に限られているので、一般化していく必要がある。	〈指導方法の課題〉 ・自己の課題の設定の仕方、課題解決の方法を学ばせる必要がある。 ・明確な視点をもたせた振り返りをさせる必要がある。 〈授業改善策〉 ◎単元の初めに、児童に何ができるようになりたいか、目標をもたせるようにする。それに向けて毎時間の目標を考えさせるようにする。 ◎運動の特性を味わえるよう、場や用具を工夫したり、単元の配列や単元内の自由進度学習を進められるようにする。 ・学習用タブレット端末をうまく活用している児童を取り上げて、活動の中で積極的に使用できるような指導を行う。
第6学年	**〈成果〉** ・ボール運動では、全員が楽しめるようにするためのルールを考えることができた。 ・器械運動、陸上運動では、児童一人ひとりが課題を考え、それに向けて練習をさせることで、個別最適な学びを実現できた。 **〈課題〉** ・課題を児童に考えさせることができたが、課題設定が実態と合っていない児童がいた。教師側が、修正してく必要があった。 ・その時間の課題に対しての振り返りができていない児童がいた。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・児童一人ひとりが自身の課題を考え取り組めている。一方で、自身の課題と授業のめあてを結び付けて練習をしている児童が少ない。 ・振り返りをする上で、本時の課題と成果をもとに次回の目標を考えている児童と、そうでない児童の二極化されている。 ・お手本の動画を活用して学習する姿が見られた。ただ、一部の児童に限られているので、一般化していく必要がある。	〈指導方法の課題〉 ・理解力や運動技能に差があるため、基礎・基本や動きのポイントを共有していく必要がある。 ・自己の課題を見つけるための視点を明確に提示する必要がある。 〈授業改善策〉 ・動きのポイントを教えるのではなく、児童自ら課題を見付け解決していくことができる授業をしていく。また、その動きや考えをグループ内や全体に共有していく。 ◎何ができるようになりたいか、どのように学びたいかを単元前半で、きちんと明確にしていき、児童とともに学習計画を立てていく。 ・学習用タブレット端末等を活用して、動きのポイントと自己や友達の動きを照らし合わせ、課題を見付け解決していくようにする。 ・個人の記録やチームでの記録を計測し、成長を実感させることで、主体性をもって授業に臨ませるようにする。